

1、那須温泉の由来と伝説

那須温泉の由来によるとその歴史は、今から一三七〇年前の鹿の湯の発見に始まるとされています。

狩野三郎行広という者が狩りに来て、一頭の大白鹿に矢を放つたが、手負いのまま山中に逃げられてしまう。

それが今の元湯付近まで追つて来ると突然白髪の老翁が現れて『吾は温泉の神なり汝の索むる鹿は彼の谷間の温泉に浴し居れり、その温泉は万病を癒して甚だ効あり、鹿の浴するも亦その手傷を癒さんが為なり、汝宜しく之を聞きて万民の病苦を済うべし』と言つて消えてしまった。

そのおかげで三郎は鹿を捕らえることができた。これは神のご託宣だと思って温泉を聞き、名を『鹿の湯』と名づけたことからこの那須温泉が開かれてきたと言われております。

その後、鹿の湯の発見から次々に温泉が発見されるなど明治の初期までに鹿の湯、大丸温泉、北温泉、弁天温泉、八幡温泉、

高雄温泉、三斗小屋温泉の温泉が開かれ現在那須七湯と呼ばれるようになった。

那須七湯とは

○那須温泉（鹿の湯）温度は六三℃～八〇℃の湯は、皮膚病、胃腸病、婦人病、疲労回復などに効果あり、独特の硫黄臭と無色透明の柔らかな湯が、体の芯からゆっくりと疲れを癒してくれます。

○弁天温泉は天保年間に浴場があつた記録がありますが、再発見され旅館となつたのは明治になつてから。胃腸病、脳神経病、リウマチに効果があります。

○北温泉は、元禄九年開閉湯と伝えられる。北温泉は、余笠川上流にあり『天狗の湯』温泉の湯、相の湯の三湯が楽しめます。無味無臭、無色透明の湯はヒステリーや皮膚病リウマチに効果あり。

○大丸温泉は、藩主大関氏や乃木將軍が愛欲したことで知られ

る温泉。茶臼岳の一番中腹に位置し、桜の湯、相の湯の一湯があり、結核、肋膜炎、湿疹などに効用があります。

○高雄温泉は、古く神聖視され、信仰登山者に『お行の湯』として親しまれました。

湯貝と呼ばれる巻貝が生息するめずらしい湯。温度四〇℃、無色透明で慢性皮膚病、神経痛に効果大。

○八幡温泉は、八幡崎の大地にある温泉で源泉は白土川沿岸。異臭のない無色透明の単純温泉は、神経系疾病、痔疾、リウマチによく効きます。

○三斗小屋温泉は、古い谷を幾度も超える山奥を意味する『三斗小屋』の名のとおり、奥深い山間にある温泉。大黒屋、煙草屋の二軒があり、リウマチや婦人病に効果あり。

が那須七湯と呼ばれておりますが、ここまで呼ばれるようになった経過には那須一一湯と呼ばれた事もありました。その時は、新那須、飯盛、旭、郭公温泉が加わり那須一一湯と呼ばれましたが、災害などにあい再興されず廃止されました。

那須温泉が現在のように全国に知られるようになるまでには温泉だけでなくいろいろの歴史や伝説などにより那須温泉が名を馳せるようになつてきました。